

登録コード	UAA30500	開講年度	2026					
授業題目	日本文学実践演習Ⅰ					担当教員	速水 香織	
						副担当		
単位数	2	講義期間	前期	曜日・時限	月曜・3時限			
				授業形態	演習			
信大コンピテンシー	非該当							
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】	
	2.6 UAカリ・総人社・人間文化学，2.5 UAカリ・総人社・人間文化学					⇔	多様な文献の精読を通じ、テキストの正確な読解能力および文献から得た知識を活用し得る応用力を獲得する。	
	【人間文化学】思想、歴史、社会、情報、言語、芸術など多種多様な側面を持つ人間文化に関する深い素養と幅広い理解を基盤として、その文化を継承し、柔軟な感性と創造的な論考により専門領域の問題を客観的・学問的に究明し、独自に理論を構築する能力や仮説を検証する能力を有する。						⇔	
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。						⇔ 歴史的・文化史的な知見を深めることにより、様々な事象を客観的に評価する視野を獲得するとともに、自己の考えを他者に効果的に伝達する能力を獲得する。	
(2)授業の概要	近世末期から明治初期にかけて成立した寺門静軒作『江戸繁昌記』ならびに成島柳北『柳橋新誌』を素材とする。幕末当時から明治初期における社会状況を作品背景として把握し、本文に注釈・現代語訳を施したのち、参加者各自が問題点を見出し、考察を加える。なお、解釈のための調査・注釈作業にあたっては、ディスカッションによって精度を高めるとともに、全体の言語運用能力、ひいては問題解決能力の向上を図る。							
(3)授業計画	第1回：ガイダンス・日本文学における随筆の位置づけ・「漢文戯作」について 第2回：作者・作品の概要確認①：寺門静軒の伝記的研究 第3回：作者・作品の概要確認②：寺門静軒と『江戸繁昌記』の出版、そして出版規制 第4回：『江戸繁昌記』の本文読解①：当時の江戸における風物詩調査 第5回：『江戸繁昌記』の本文読解②：実証的調査の方法—文献による情報収集 第6回：『江戸繁昌記』の本文読解③：作者による脚色とその意図についての考察 第7回：ディスカッションⅠ：調査結果のプレゼンテーション 第8回：ディスカッションⅡ：Ⅰを踏まえての再調査結果のプレゼンテーションと講評 第9回：作者・作品の概要確認③：成島柳北の伝記的研究 第10回：作者・作品の概要確認④：成島柳北と『柳橋新誌』の出版、そして出版規制 第11回：『柳橋新誌』の本文読解①：本文への注釈作業 第12回：『柳橋新誌』の本文読解②：遊里文化への理解と人情の描写（ゲストスピーカー） 第13回：ディスカッションⅢ：調査結果のプレゼンテーション 第14回：ディスカッションⅣ：Ⅲを踏まえての再調査結果のプレゼンテーションと講評 第15回：まとめと講評—課題への取り組みと成果 定期試験 実施する。							
(4)成績評価の方法	幕末から明治にかけての歴史的・社会的背景を踏まえ作品理解を行えているかを判断するため、講義形式の回にはコメントシート、ディスカッションの回にはミニレポートの提出を課す（80点）。これと定期試験（20点）の合計100点満点として成績評価する。 合計100点満点のうち、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可と評価する。59点以下の場合は単位認定しない。							
(5)成績評価の基準	【卓越している（秀）】日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、極めて高い水準にある。 【かなり上にある（優）】日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、非常に高い水準にある。 【やや上にある（良）】日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、高い水準にある。 【その水準にある（可）】日本文学研究の理論的知識をもとに作品を理解し、それに基づく自己の見解を明確に表現する力が、一定水準にある。							
(6)事前事後学習の内容	プレゼンテーションのための十分な知識の修得と準備とが事前学習となる。またディスカッションの内容や指摘された点について検討し、より充実したプレゼンテーションへと発展させることを事後学習とする。							
(7)履修上の注意	プレゼンテーションのための準備には、十分な時間と緻密な作業とが必要となる。また資料を読むにあたっては正確な読解能力を要するので、そのことをふまえて受講すること。							
(8)質問,相談への対応	メール連絡・担当教員のオフィアワーにおいて対応する。面談を希望する際は、事前に必ず連絡を取ること。担当教員のオフィスアワーは、以下のとおり。 木曜日昼休み（12:10-13:00）、khayami@shinshu-u.ac.jp							
【教科書】	各回の内容に合わせて独自に作成したプリントをそのつど配布する。							
【参考書】	新日本古典文学大系100『江戸繁昌記・柳橋新誌』（日野龍夫校注、岩波書店1989）							